

去年圓堂院行幸時著當色、此時有可著當色、不可著褐、仰曰、令著當色例服、已上御記○

〔日本紀略村上〕天曆元年正月四日庚寅、天皇幸朱雀院、拜謁太后、○母后次謁太上天皇、○朱雀、

〔榮花物語三〕の悦、永延二年になりぬれば、正月三日、○融にぎやうかう條、○一ありて、みや母

詮子藤原もおはしませば、いとまうものゝぎまきありさまさりて、心ことにめでたし、みかど

の御ありさま、いみじうつくしげにおはしますを、○融いとかひあり、えもいはずみたてまつ

らせ給、御ふえをぞ御こゝろにいれさせ給へれば、ふかたてまつらせ給て、いみじうもてけら

せさせ給、○融の御かたには、みかどの御おくり物や、みやのおほんおくりものやなど、さまゝ

にせさせ給へり、かんだちべてんじやう人の御祿など、すべてめもあやにおもしろくせさせ給

へり、おほんめのだのすけたちや、なべての命婦藏人、みやの御かたの女ばう、すべてま

ものかすにもあらぬ衛士仕丁まで、みなしなほ物給はせたり、又院司かんだちべや、さべき人

々よろこびせさせ給へり、

〔百練抄四〕一條、正暦元年正月十一日戊子、幸圓融寺、朝覲法皇、○圓主上令吹御笛給、○又見日

〔續古事談王道后宮〕一條、院圓融寺、○圓へ御幸アリ、○中御遊ノ時、主上御笛吹キ給フ、其音メデタ

クタヘナリケレバ、院融、○圓感ジテ、御笛ノ師左衛門督高遠朝臣ヲ召テ、三位ヲ免サレケレバ、高遠

拜舞シテ上達部ノ座ニ加ハリツキケリ、

○按ズルニ、本文年月ヲ掲ゲザレドモ、公卿補任正暦元年ノ下ニ、從三位藤高遠、正月十一日、行

幸圓融院、日トアレバ、上文百練抄ト同時ナルヲ知ルベシ、

〔日本紀略十一〕長徳元年正月二日己酉、行幸東三條院、○母后藤為朝覲也、

〔小右記〕正暦六年○長徳正月二日己酉、巳時許參内、今日行幸也、○中既及未一點、件刻遂有行幸、出

禮陽明等警蹕鈴奏等如例、右大臣、○藤原内大臣、○藤原以下扈從、左大臣、○源重信、追參於院、○乘車、○三